

臨地実習（地域看護学）

[実習] 後期 必修 90時間 2単位

《担当者名》工藤禎子 [cxm02601@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

地域看護学特論と演習での学習を基に、課題研究のテーマと関連する実習の目的を明確にして、都道府県、市区町村などの行政の保健衛生部門や、関連機関での実習を行い、地域・在宅看護活動を展開する技術・技能、及び住民・利用者とのパートナーシップについて理解を深める。実習での学びを課題研究へと発展させる。

【学修目標】

地域看護活動方法に関する研究課題と関連する目標を立てる。目標の例は以下である。

個人、住民組織などを対象としたヘルスケアプログラムの開発、実施、評価の要点を説明できる。

慢性病や障がいを持つ人とその家族のケアプログラム、実施、評価の要点を説明できる。

地域看護活動で協働する関連機関・職種、及び住民との協働、連携、ネットワーキングの意義と方法を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	【実習方法】	1)実習目標を明確にして、指導教員の助言を基に実習計画を立て、実習先を選択し、交渉にあたる。 2)実習先では、参加観察や記録を行う。 3)実習指導者と教員の指導、助言、実習カンファレンスを通じ、実習目標に関する内容を深める。	工藤
	【実習期間】	概ね2週間とする。 日程は実習課題と、実習先の状況に合わせて、柔軟に調整する。	工藤
	【実習記録、実習報告書（レポートの）作成】	1)実習記録簿：日時、場所、目的、実習内容を記録し指導教員に提出する。 2)実習報告書（レポート）：実習の経過並びに実習で得た知見を報告書にまとめて提出し、実習先指導者と教員の指導を受ける。	工藤

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

参加状況（準備・態度等）40%、記録簿・報告書30%、

カンファレンスなどでのプレゼンテーション30%

【学修の準備】

1. 研究課題と関連する実習目標を含む実習計画書を作成し、指導教員の指導を受ける。
2. 実習目標に即した実習先を選択し、指導担当予定者に実習目標と内容を相談し、了解が得て機関長宛の文書での依頼をする。
3. 事前訪問を行い、実習に関する留意事項をよく理解しておく。
4. 実習目標に関連する文献・資料を収集、読解し内容理解を深める。
5. 実習中の出欠および記録等に関する様式を揃える。